

あいちの工業100年

年代	年表	窯業	繊維工業	工作機械工業	自動車工業
1860	明治維新(1867)	瀬戸・常滑をはじめ、古来より陶磁器産業が発達	愛知県は明治維新以前から全国に知らせた綿織物産地(尾西中島綿木綿、三河木綿、知多晒は幕末にはすでに関東でも販売)		
1870	官営富岡製糸場開業(1872)		1873年 臥雲辰致がガラ紡績機を製作		
1880			1880年代「ガラ紡」が三河地方一帯に急速に広まる 1881年 愛知県に模範工場として官立愛知紡績所が設立される		1886年 ドイツのベンツ社の創立者が世界初のガソリン車を製作
1890	濃尾大地震(1891) 日清戦争(1894~95)	1892年 森村組が名古屋支店を開設	1890年 豊田佐吉が豊田式人力織機を製作 1891年 濃尾大地震の被害により尾張地域で綿栽培ができなくなるさらにインドからの安い綿の輸入 1898年 片岡春吉がモスリンの製造を試みる	1898年 大隈榮一が創設した大隈麵機商会(現オークマ)を創業	
1900	官営八幡製鉄所操業(1901) 日露戦争(1904~05)	1904年 日本陶器合名会社(現ノリタケカンパニーリミテド)が森村組によって欧式製陶工場として設立	1908年 安井ミシン商会(現ブラザー工業)設立		1903年 ヘンリー・フォードがフォード社を設立 1907年 東京自動車製作所が「タクリー号(国産ガソリン車第1号)」を製作
1910	第1次世界大戦(1914~19)	1911年 帝国製陶所(現鳴海製陶)設立 1914年 日本陶器が硬質白雲磁器で洋食器ディナーセットを完成 1919年 日本碍子(現日本ガイシ)が碍子を専門に生産する会社として日本陶器から分離	第一次世界大戦後に愛知県の紡織工場数が全国トップとなる。	1918年 大隈鐵工所がOS形普通旋盤を発売 1919年 山崎定吉が山崎鐵工所(現ヤマザキマザック)を創業	1910年 アメリカのフォード社が「T型フォード」の生産を開始 1917年 三菱造船が「三菱A型」を製作
1920	関東大震災(1923) 世界恐慌(1929)	1921年 日本碍子がプラグの開発を開始 1924年 伊奈製陶所(現INAX)が建築陶器のメーカーとして創業	1920年 綿糸の機械染め、チーズ染色がはじまる 1924年 豊田佐吉は無停止杼替式豊田自動織機(G型自動織機)を完成		1925年 日本フォードが国内で組立生産を開始
1930	満州事変(1931) 日中戦争(1937~1940) 第二次世界大戦(1939~45)	1930年代 自動ロクロ、土練機、棚移動式乾燥装置などが採用され、近代的な窯業が確立 1930年 日本碍子が「NGスパークプラグ」を商品化 1936年 日本特殊陶業が日本碍子から独立	1932年 安井ミシン商会が家庭用本縫ミシン国産第1号を完成 1933年 大隈鐵工所(現オークマ)がレピア織機を生産 1937年 愛知県の紡績機生産額は全国第2位、織機生産額は全国第1位	1931年 工作機械メーカーとして本格的な生産を開始(山崎鐵工所) 1934年 山崎鐵工所がモーター直結型のロール旋盤を完成	1930年 大岩名古屋市長が名古屋(中京)デトロイト構想を提唱 1932年 大隈鐵工所、愛知時計電機、岡本自動車、日本車輛製造の4社が共同出資し、高級乗用車「アツタ号」試作1号を完成 1934年 豊田自動織機(現トヨタ自動車)でA型エンジンが完成 1938年 トヨタ自動車挙母工場が稼動
1940	太平洋戦争(1941~45)	1947年 日本陶器が「Noritake China」の輸出を再開		1940年 アメリカ対日輸出禁止 1941年 大隈鐵工所がオークマ油圧式万能研削盤(GHU-300形)を完成 1946年 GHQにより工作機械の製造・販売が禁止される(1950年解除)	1947年 アメリカのフォード社がオートメーションをスタート 1947年 GHQにより禁止されていた乗用車生産が制限台数を決めて許可される
1950	朝鮮戦争(1950~53) 伊勢湾台風(1959) 高度経済成長(1957~65)			1958年 大隈鐵工所がLS実用高速旋盤(LS形旋盤)を完成 1959年 山崎鐵工所が工作機械の生産再開	1952年 トヨタ自動車が本格的な自動車の開発開始 1955年 通産省が「国民車育成要綱案(いわゆる国民車構想)」を発表
1960	東京オリンピック(1964) 公害防止基本法(1967)	1963年 セラミック基板が実用化される 1967年 日本特殊陶業がICパッケージの生産を開始	1964年 民成紡績(現豊田紡織)と豊田自動織機製作所(現豊田自動織機)がTAS式連続豊田自動紡績法を開発 1968年 豊田自動織機製作所がオープンエンド製紡機の生産を開始	1963年 山崎鐵工所が日本初の対米輸出を実現(旋盤) 1967年 山崎鐵工所がNC旋盤第1号機を完成	1960年代 トヨタ自動車で「かんぱん方式」が生み出される 1965年 乗用車の輸入自由化 1966年 トヨタ自動車が「カローラ」を発売
1970	大阪万博(1970) ドルショック(1971) オイルショック(1973)	1973年 日本ガイシがハニカムヒーターを開発 1976年 日本ガイシが自動車排ガス触媒担体を開発 1979年 日本ガイシが固相反応法による単結晶フェライトの製造法を発明	1970年代 途上国などからの繊維の輸入が増加し、繊維工業は輸出産業としての競争力が弱まる 1979年 豊田自動織機製作所がエアジェットルームの国産機を製作 1979年 ブラザー工業が日本業界初のコンピュータミシン「オーパス8」を開発	1970年代NC機の登場により工作機械の自動化が一気に加速 1970年 山崎鐵工所がマシニングセンタの製作を開始 1972年 戦後はじめて工作機械の輸出が輸入を上回る 1974年 山崎鐵工所がアメリカで現地生産を開始	1970年 三菱重工業から自動車部門が独立し、三菱自動車工業として発足 1978年 日本で「53年排出ガス規制」がはじまる
1980	プラザ合意(1985)	1982年 日本特殊陶業がジルコニア酸素センサーを実用化 1986年 日本ガイシが圧電アクチュエータを実用化	1980年代以降 高機能製品の開発(毛織物では伸縮性、軽量、高通気性などを備えたウールの開発)	1981年 大隈鐵工所が対話形NCのプログラミング機能(IGF)を発表 1981年 ヤマザキマザックの大口径製作所で、世界初の本格的な無人化運転システムを完成 1982年 工作機械生産額世界第一位 1987年 ヤマザキマザックがCNC旋盤を開発	1980年から1993年まで日本の自動車工業は世界最大の自動車生産・輸出国の地位を占めた
1990	東西ドイツの統一(1990) 湾岸戦争勃発(1991) ソ連崩壊(1991) 阪神・淡路大震災(1995)	1990年 日本ガイシが東京電力と共同でNAS電池を開発 1994年 ノリタケカンパニーリミテドが耐熱タイルを開発		1990年代「CIM」と呼ばれる、コンピュータによる生産統合へ、技術開発の中心が移ってきた 1998年 ヤマザキマザックが本社工場内にサイバーファクトリーを構築	1997年 トヨタ自動車が「プリウス」を発売
2000	アメリカNYテロ(2001) イラク戦争(2003)				2002年 トヨタ自動車が燃料電池電気自動車FCHVを限定発売

出典:産業技術地域ネットワークミュージアムモデルストーリー報告書(14年3月 中部経済産業局)を元に、一部加筆。